

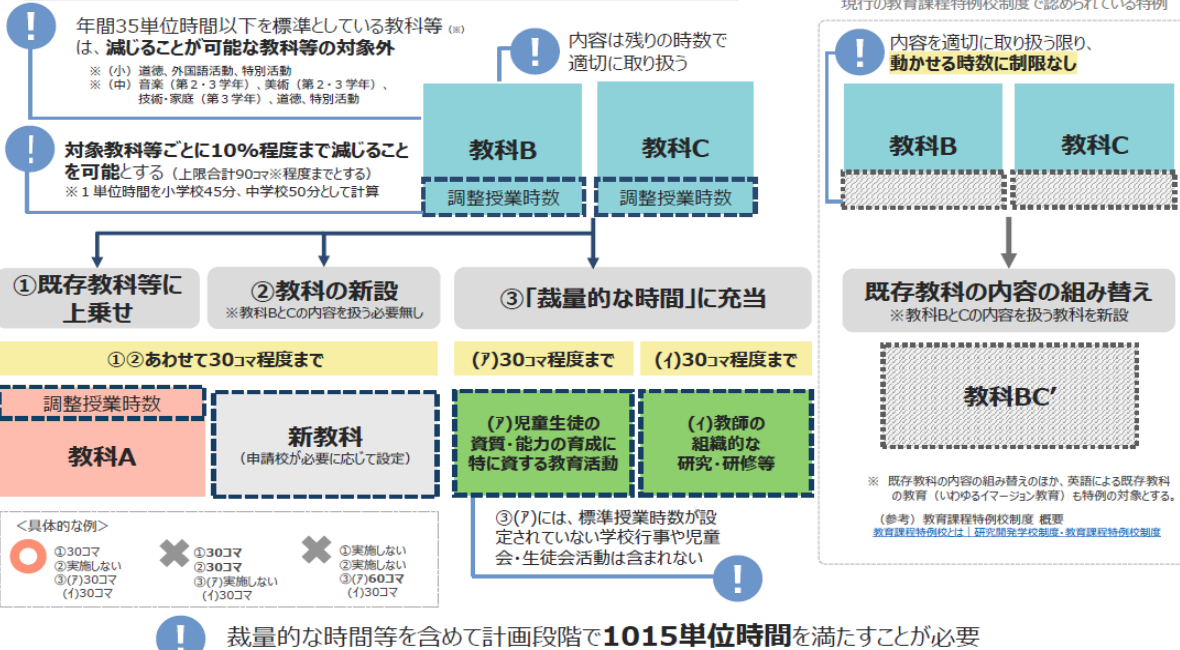
「サキドリ研究校」について

- **R8・9年度 文部科学省教育課程柔軟化サキドリ研究事業の指定校**に選出された（新潟市内小学校4校・中学校1校）。保護者や地域の方々の関心も高まっている。無理なことや真新しいことをやるのではなく、昨年度まで和納小学校が実践してきたことをより価値付けて実践していくだけのことである。そのために、学校独自に、各教科の標準授業時数を操作してよいという「おいしい話」で、次期学習指導要領では、これができるようになる。その「サキドリ」をできるチャンス！を得たということ。具体的には、次の通り。

認められる教育課程の特例の内容

サキドリ研究校事業においては、「調整授業時数制度」の中で、現行の教育課程特例校制度で認めている特例も認めるものとする。
※本事業は、研究開発学校制度の下での教育課程の柔軟化の主な先行事例及び現行の授業時数特例校制度を念頭に置きつつ、「調整授業時数制度」の導入に先立って、まずは一定の範囲での教育課程柔軟化の試行事例を全国各地に生み出そうとするものである。実際の「調整授業時数制度」の制度設計は今後中央教育審議会において検討されるものであり、本事業とは同一の仕組みとはならない可能性があることを前提とする。

サキドリ研究校事業における授業時数調整の仕組み



☆ 和納小学校の基本方針～「社会に開かれた教育課程」の実践

- ① 学ぶべき事を正しく学び、実生活や実社会で学びを生かす子どもを育てる
⇒ 外部の専門機関や専門家等の力を生かす(いじめ・人権・生命・情報モラル)
⇒ 「道徳プラス」(※「道徳」の時数)
- ② 進んで地域にかかわり、ふるさと和納へ誇りや愛着をもつ子どもを育てる
⇒ CSやコミ協等の地域の力を生かす～地域に参画する
⇒ 「わなみプラス」(※「裁量的な時間」)
- ③ 自分に合った学び方で、主体的に学ぶことができる学習者を育てる
⇒ 自己選択学習の時間を設定する～朝学習(モジュール時間)での実践
⇒ 「わなみプラス」(※「裁量的な時間」)

◎課題

- ① 教育計画に示した資質・能力の育成や教育活動が計画的に実施されていない
- ② 何の教科等の学習なのか、位置付けやねらいが明確でないまま活動が行われている
- ③ 「学活」と「学校行事」の時数が多すぎる（教育課程の整理・明確化が必要）

【道徳プラス】（全7時間）

- ① いじめ・人権・生命の安全教育・情報モラルに関する学習を、関係機関の協力を得て学級または全校（学年部）で実施する
- ② GIGAに関する道徳的な指導を、学級または全校（学年部）で実施する

【わなみプラス】（全10時間）

- ① 自己の伸長（キャリア形成）に関わる学習を学級または全校（学年部）で実施する
- ② 地域と連携した活動や、地域や関係機関等から提供された学習を、学級または全校（学年部）で実施する
- ③ 自分で学習内容を決めて取り組む朝学習（モジュール15×3）を、「学力パワーアップ週間」に実施する

⇒ 各学年の年間指導計画を基に、教育活動を進めていく。

「わなみクラブ活動」について

- 「地域とともにある学校」を実現するために、子どもたちのクラブ活動に、地域の方も参加できるようにする。例えば、活動の講師をお願いしたり、子どもと一緒に活動してくれる人を募ったりすることが考えられる。地域教育COと一緒に、地域に学校を開いていくことが、「社会に開かれた教育課程」の実現にもなる。

⇒ **すでに、クラブ活動主任が計画している。先生の負担軽減かつ、先生も一緒に活動を楽しむクラブ活動になることを願っている。**

- 「野きろの杜」から、8月初旬に開催するイベントを、和納小の子どもたちが企画し、実際にやってみるという「イベントクラブ」の提案を受けている。今後、希望者を募集し、学校も協賛しながら子どもたちが地域でも活躍できるようにしていく。

「和納ふれあいの日」について

- R7年度から、学校運営協議会（CS）が中心となって、和納地域を子どもたちが歩いて回り、地域の人たちと交流体験を行う教育活動を始めた。地域とともに企画・運営する「地域と学校パートナーシップ事業」でもあり、和納小学校の新たな特色ある教育活動として発展させていく（⇒「わなみプラス」の時数として4h）。

⇒ **今年度は、11月6日（金）に予定。地域教育COを中心に、CSと連携して、企画・運営する。昨年度の反省を生かし、役割分担をしながら進められるようにする。**